

横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく令和6年度の実施状況について

概要

横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づき、
国際局の2024（令和6）年度施策の実施状況等について報告します。

目次

- 1 指標の進捗状況（基本方針6）
- 2 2024(令和6)年度の主な取組（基本方針1～7）

目次

- 1 指標の進捗状況（基本方針6）
- 2 2024(令和6)年度の主な取組（基本方針1～7）

1-(1) 指標の進捗状況

- ・2023(令和5)年度の温室効果ガス排出量は、2013年度比30.8%減の390トン
- ・2024(令和6)年度のエネルギー消費量は、2013年度比24.4%減の8.5TJ

＜温室効果ガス排出量及びエネルギー消費量の状況＞

上段：実績、下段：削減率（基準年度比）

主な指標	基準値 (2013年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
温室効果ガス排出量[万t-CO ₂]	0.055	0.038	0.040	0.039 (▲30.8%)	—
エネルギー消費量[TJ]	11.2	8.5	8.9	8.0	8.5 (▲24.4%)

1-(2) 指標の進捗状況

- ・2024(令和6)年度は、各区の国際交流ラウンジや国際協力センターにおいて、LEDを導入
- ・太陽光発電設備の導入、及び一般公用車の所有はありません

＜対策の取組状況＞

主な指標	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
LED等高効率照明の導入	22%	24%	44%	49%
太陽光発電設備の導入	—	—	—	—
一般公用車における次世代自動車等導入	—	—	—	—

＜職員の取組＞

- ・全職員を対象とした環境研修を実施し、温暖化対策の取組に対する理解促進を図りました。
- ・業務を行うに当たっては、必要となる物品、役務等の調達について、環境に配慮した物品調達(グリーン購入)を推進しました。
- ・局内での打合せにおいて、ペーパーレス化を推進しました。

- 1 指標の進捗状況（基本方針6）
- 2 2024(令和6)年度の主な取組（基本方針1～7）

2-(1) 2024(令和6)年度の主な取組

基本方針5 世界共通の課題である脱炭素化への貢献

1 海外諸都市への技術協力・海外インフラビジネスの推進

- タイ・バンコクやインドネシア・マカッサルなどで脱炭素化をテーマとしたフォーラムを現地開催し、市内企業と連携して、各都市の建築物の省エネ・再エネ事業の形成に取り組みました。これらの取組の結果、ペロブスカイト太陽電池の実証事業を開始するなど、アジア地域での温室効果ガス削減に貢献しました。また、Y-PORTセンターを拠点に海外都市からの研修受入れや国際会議での情報発信を通じて、国際的なネットワークを構築しました。
- 今年度は、これらの実績を生かし、海外都市への技術協力を進めるとともに、市内企業の海外展開支援を通じて、アジアの脱炭素化に公民連携で貢献していきます。

2-(2) 2024(令和6)年度の主な取組

基本方針5 世界共通の課題である脱炭素化への貢献

2 脱炭素に関連する国際会議の開催、国際的都市ネットワークとの連携の強化・情報発信によるプレゼンス向上

- 第13回アジア・スマートシティ会議を開催し、国内外から約2,200名が参加しました。「アジアの脱炭素」をテーマに、経済成長と都市環境の両立に関する知見を共有し、39の海外都市・政府機関の賛同のもとアジアのグリーン社会の実現に向けた横浜宣言を発出しました。また、日本企業による課題解決に向けたプレゼンテーションや46者によるブース出展、1,100件超のアジア都市と企業のグリーン分野のビジネス交流を実現しました。引き続き、国際的なネットワーキングを推進し、国際機関との連携を強化します。
- 2027年のアジア・太平洋都市フォーラム横浜開催に向けた準備を進めるとともに、アジア・スマートシティ会議を活用し、海外諸都市と共にサーキュラー都市を推進するなど、環境先進都市としての役割を果たしていきます。

2-(3) 2024(令和6)年度の主な取組

基本方針5 世界共通の課題である脱炭素化への貢献

2 脱炭素に関連する国際会議の開催、国際的都市ネットワークとの連携の強化・情報発信によるプレゼンス向上

- ローマ教皇庁主催の気候変動に関する国際会議やCOP29（国連気候変動枠組条約第29回締約国会議）等へ参加し、横浜市の脱炭素施策の取組を発信しました。また、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の専門家を招いたセミナー等をはじめ、EU代表部やオランダ大使館、環境省等と連携し、気候変動や資源循環に関する国際ワークショップ・セミナーの共催を通じて、都市の役割と本市の先進的な取組を国際社会に広く発信しました。
- 今後は、カーボンニュートラル及びサーキュラーフィールドにおけるブランディング・プロモーションを強化し、国際機関やアジア・欧米諸都市と連携しながら、アジアにおけるサーキュラーフィールドの推進を先導し、横浜市の取組を世界に発信していきます。